

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 研修プログラム

1 研修先

耳鼻咽喉科・後頸部外科

2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

3 診療科基本スケジュール

- (1) 研修期間 自由選択研修 4週間 ※自由選択が1回目の研修は当該期間を短縮することはできない(延長は可)が、2回目以降の研修は短縮することができる。

(2) 配置予定

	自由選択研修
病棟	回診の見学と介助
外来	外来見学 問診聴取と記載
検査	外来 喉頭内視鏡検査 頸部エコー等
その他	気管切開術の助手等

(3) 週間予定表

	午前	午後
月	外来見学 病棟業務	外来見学 往診 カンファレンス
火	手術見学	手術見学
水	外来見学 病棟業務	外来見学 往診 カンファレンス
木	手術見学	手術見学 希望者は準夜帯救急見学
金	外来見学 病棟業務	外来見学 往診

4 研修目標

【一般目標】

- (1) 救急医療：臨床研修医が耳鼻咽喉科救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。
- (2) 慢性疾患：臨床研修医が適正な診断を行うために必要な耳鼻咽喉科疾患の重要性特殊性について理解修得する。
- (3) 基本手技：耳鼻咽喉科疾患の診断と治療法の基本的手技の重要性をよく理解し、その安全で確実な知識と手技を修得する。
- (4) 医療記録：耳鼻咽喉科疾患に対して理解を深め、医療記録に必要事項を正確に記載できる能力を身に付ける。
- (5) 医師としての基本的人間形成（医の倫理など）
- (6) 社会保障制度について理解修得する。

【行動目標】

- (1) 耳鼻咽喉科疾患について正確に病歴が記載できる。
- (2) 耳鼻咽喉科領域の診察を行い、所見が正確に記載できる（耳鏡検査、鼻鏡検査、咽喉頭鏡検査、頸部の触診、耳鼻咽喉内視鏡検査など）。
- (3) 問診、病歴、診察所見から、必要な検査をオーダーし、実施する（XP、CT、MRI など画像診断、血液生化学検査、聴力検査、平衡機能検査、嗅覚検査、味覚検査、顔面神経検査、アレルギー検査、アプノモニターなど）。
- (4) 検査結果を正確に診断し、対応する。

- (5) 耳鼻咽喉科外来処置、小手術ができる（耳処置、鼻処置、鼻出血止血法、鼓膜穿刺・切開術、副鼻腔穿刺・洗浄、耳管通気など）。
- (6) 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。（鼻骨骨折の整復、顔面外傷の創処置など）
- (7) 手術の必要性、概要、侵襲性について患者、家族に説明する。
- (8) 指導医師への報告、連絡、相談を緊密に行い、指導を仰ぐ。
- (9) 指導医師、他科医師、コメディカルスタッフとの円滑な協力態度の修得

5 経験すべき症候・疾病・病態（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	<u>めまい</u>
経験すべき疾病・病態(※2)	急性上気道炎

※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6 経験すべき手技

気道確保、包帯法、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合

7 実際の業務

- 週間予定表に沿って原則として外来・手術・病棟業務を中心に行う。
- 受け持ち患者に関するすべての業務を上級医、指導医に報告、連絡、相談しながら実施する。
- 与えられた課題について、調べ、カンファレンスで発表する。

8 指導内容

- 外来見学でのリアルタイムな指導など
- 代表的疾患・病態の理解
- 紹介状・返書や退院サマリーの記載
- 家族への説明の仕方
- 勉強会でのプレゼンテーション

9 方略・評価

- 指導医から日々の診療と研修終了時（必修時は4週目）にフィードバックを受ける。
- 担当患者のカルテ記載やプレゼンテーションについて適宜フィードバックを受ける。
- 指導医および看護師長から PG-EPOC を用いて評価を受ける。